

私は、平成26年度の奨学生として、チェコ共和国の首都にあるプラハ経済大学に1年間留学をしました。当レポートでは、二点にまとめ紹介します。

第1は、プラハという街についてです。プラハは、オーストリアのウィーンよりもドイツ寄りに位置し、ボヘミア王を兼ねたドイツ人が神聖ローマ帝国皇帝を務め、この地を首都にドイツ民族に戴かれた時期もあることから、独自のスラブ文化と併せて国際性も古くから備えた都市です。日本の観光客には、百塔のプラハや黄金の街という言葉で表現されています。また、ビールの消費量が世界一ということもあり、街中のパブには、常時、人があふれ独特な雰囲気を感じました。

第2は、私の親善大使としての活動についてです。大きく分類して三つの活動をしました。一つは、友人を私の部屋に招き、狭山茶をふるまったり、埼玉の魅力について、写真を見せながら話しました。二つ目は、プラハ経済大学にて、プレゼンテーションを行いました。パワーポイントを作成し、約百名、50カ国から来られていた学生に向け、埼玉の魅力を発信しました。三つ目は、プラハにある日本大使館にて埼玉県のパワーポイントを行いました。プレゼンテーションは、プラハ経済大学でのパワーポイントを一般企業向けに改良し、発表しました。約二十名の教授、お茶の専門家、そして仏教徒の方々等にお聞きいただきました。プレゼンテーションの終わりに狭山茶を振る舞いました。皆様、とても感激されていたことを思い出します。試飲会を終え、皆様に多くの質問を頂き、専門的な質問をされ、回答できないこともあり、私自身、もっと深く学ばなければと思わされる事もありました。

